

6月3日（月）～7日（金）に英国ロンドンの郊外にある BSI (British Standards Institution) で IEC (国際電気標準会議) TC 100 (AV・マルチメディア、システム及び機器) の AGS (戦略諮問会議) 及び AGM (運営諮問会議) 及び傘下グループの会議が開催され、活発な審議が行われました。その中から、いくつかの重要な議案について紹介します。

TC 100概要

IEC/TC 100 (AV・マルチメディア、システム及び機器) : 1995年10月に設立
2004年1月より日本が幹事国を務めており、現在、国際幹事: 江崎 (ソニー)、国際副幹事: 長谷部 (東芝)、井口 (パナソニック)、Pメンバー (投票権を持つ国) : 23カ国、Oメンバー (オブザーバーの国) : 21カ国、傘下に13の TA (Technical Area) がある。なお、TC 100の受託審議団体は JEITA であり、TC 100国内委員会を運営している。

A. 新テクニカルエリアの設立: ワイヤレス給電

昨年10月に開催された TC 100総会にて、ワイヤレス給電に関する新 TA の設置が提案され、その後、①タイトル、②スコープや③役員等について審議を重ね、6月6日にワイヤレス給電に関する新 TA、TA 15を設置することが合意されました。

< TA 15の概要 >

- ①タイトル: Wireless power transfer in the area of AV and multimedia
- ②スコープ: wireless power transfer (WPT) for multimedia systems and equipment, and interoperability between the WPT transmitting and the WPT receiving functions
- ③幹事: Lim 氏 (韓国 / KETI)、
議長: Grajski 氏 (米国 / Qualcomm)
- ④日本の貢献: 日本からは、榊原氏 (富士通)

が PL (プロジェクトリーダー) になり、3次元ワイヤレス電力伝送システムの規格を提案。

< 日本提案規格の概要 >

高効率のワイヤレス電力伝送をすることを目的に、複数の送電器で3次元電力伝送領域を形成し、複数の受電器に電力伝送する条件の設定、共有、制御手法について規定する。



B. 新分野の標準化

1. 温暖化効果ガス (GHG) 排出量算定ガイドライン:

TC 111 (電気・電子機器、システムの環境規格) において、TR62725 (電気・電子製品 GHG 排出量算定方法の分析) が制定されました。本規格は電気・電子製品全般に対する規格であるため、これを基にして PC およびモニタを対象とした規格 (Technical Report: TR) を策定すべく、本年3月 Stage0 project (規格化のための準備組織) が設立されました。Degher 氏 (米国 / HP) 及び Stutz 氏 (ドイツ / Dell) がコ・リーダーとなり4月から検討が始まっています。今回 AGM 会議にあわせ、初の F2F ミーティングが6月4日開催され、今後作成する TR の構成や内容についてのアイデアが議論されました。作成される TR は PC およびモニタのみならず、ISO TC 130が検討中の E-book の GHG 排出量算定規格においても参照される予定です。

2. EVとマルチメディア機器、システムの標準化:

AGS の Study Session 5はタイトルを Multimedia equipment for electric vehicle とし広く TC 100の車分野の標準化の検討を行うべく発足しました。このSS5リーダーは日本での対応組織である AV&IT 標準化委員会・EV マルチメディア対応 PG の由雄主査（パイオニア）で、今回その PG で検討している車載機器関連の標準化について主に Information system に関して報告されました。またドイツから WSC などの関連活動会議やリエゾン提案、韓国からドライブレコーダーの性能要求の標準化に関する報告、提案が行われ、これら報告、提案を統合して今後 TC 100の傘下に Stage 0 project（規格化のための準備組織）を設置し、EVとマルチメディアに関する IEC 標準化に取り組むこととなりました。

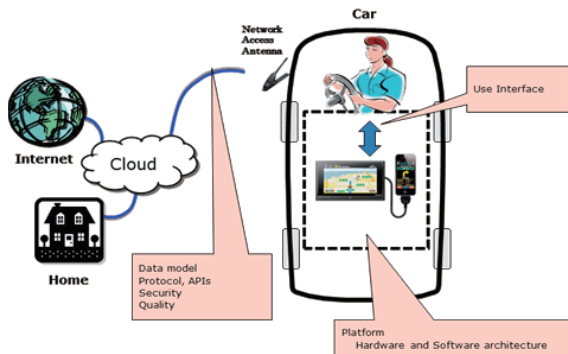
Stage0は以下の TR を作成するとともに、各国に車に関する標準化についての調査と要求事項の募集をします。

< Technical Report タイトル >

Conceptual model of standardization for multimedia car systems and equipment,

< 規格化する予定の分野 >

1. System model, 2. User Interface,
3. Security, 4. Quality



3. AAL (Ambient Assisted Living) :

AAL はドイツから提唱された project で

「環境補助生活」と訳され、「生活空間に置かれた ICT 技術に無意識に支えられる生活」のこと。様々な ICT サービスで独居高齢者の自立生活を支援し、人的介護や支援が必要となる時期をできるだけ先送りしようというもので、グローバルレベルで高齢化する中、大きなビジネスに成長する可能性があります。対象エリアは、遠隔医療、補助ロボット、健康管理、見守りサービス、セキュリティなどが考えられます。更に、機器間の相互運用性、互換性、操作性/アクセシビリティなど対象範囲が広いこと、関係するグループが多いこと、システムとしての標準化検討が必要なため、IEC の上層組織 SMB 傘下に SG5 を設置しています。

TC 100では2012年6月に AAL stage 0 project を設置し、SG5対応を含め AV マルチメディアに関する AAL のユースケースを収集/調査し TR にまとめる活動を行っています。K. Grant 氏(英国/Ninetiles)及びU. Haltrich 氏(ドイツ/ソニー)が共同リーダーとなり、現在7ヶ国1団体計17名がプロジェクトに参画、日本からは4名が Expert 登録し、ユースケースとしてネット接続されたテレビによる見守りサービスの事例を提出しています。2012年10月ベルリン会議に引き続き、今回ロンドンで2回目の project 会議が開催され、スコープ/定義、ユースケースなど活発な議論が交わされました。これらの議論を集約する TR は年内発行を目指しています。

4. 3D と UHDTV :

AGS の Study Session 1では3D 技術に加えて最近の UHD (Ultra High Definition) TV 関連技術標準化の現状について報告が行われ、3D の用語や健康影響、UHDTV 関連技術などの標準化を TC 100で検討すべきとの提案がありました。この提案を受け、AGS 会議後に有志が集まり標準化を検討すべ

き対象の検討が行われました。あげられた各項目を参加者で分担して調査を行い、次回のAGS会議で具体的な議論を行うこととなりました。

C. 業界規格を国際規格に

AV&IT標準化委員会・可視光通信対応PG・春山主査（可視光通信コンソシアム会長）が本年5月に発行されたJEITA規格CP-1223「可視光ビーコンシステム」の内容について説明をし、本JEITA規格をIEC規格化提案することについての了承を得ました。今後、AGMでの文書完成度チェックを受けた後、NP（新業務項目提案）とCDV（投票用委員会原案）の同時回覧により規格化を進める予定です。

< JEITA規格CP-1223の概要 >

可視光ビーコンシステムは身の回りにユビキタスに存在する可視光源から簡単な情報やその可視光源に固有なID情報を放射送信させることで、物の識別、位置情報の提供、各種案内システムの構築など、さまざまな応用を図るものである。本規格はこれらの応用に共通な下位通信レイヤに関する統一規格を制定、共通に利用することを目的としたものである。

D. 省エネ

現在、TC 100では、IEC 62087（AV機器の消費電力測定方法）を、①共通事項、②メディア、③テレビ、④録画機器、⑤STB、⑥オーディオにパート分けして改定作業を進めています。

ロンドン会議に先立ち、本年春に各パートのCD（委員会原案）文章案を策定、各国に回覧し、改定内容に関するコメントを募集しています。

今回のロンドン会議では、最もコメントの多かったテレビパートを中心に、各国から集まったコメントに対する解決案を、2日間、朝9時から夜7時まで精力的に審議しました。

今後は、次回会合（中国・深セン、9月）にてCD文章を完成させ、CDVに移行することを計画しています。最終的には、2014年秋に国際規格の発行を目指しています。

また、上記6つのパートに加え、2013年4月にオーストラリアからコンピュータモニターパートの新規提案があり、現在各国投票期間中です。

E. 時代に、ビジネスにマッチした活動

AV&IT標準化委員会では、従来のAV機器固有の標準化活動はもとより、最近クローズアップされてきている社会的なテーマにも対応しています。ここ数年来、IECにおいて、アクセシビリティやAAL、エネルギー効率・省エネ等環境関連テーマ等が話題の中心になりつつあります。これらの潮流にもタイムリーに、迅速に対応した活動を行っていきます。

TC 100が設立されて以来、約20年間、JEITAメンバーが中心となり、TC 100を通じて、国際標準化活動を行ってきました。今後は、システム、環境、次世代カーエレ、スマートグリッド等新しい分野や横断的テーマが増えてくると予想されます。JEITAメンバー企業のビジネスに資するべく、我々の強みを活かして、戦略的に、効果的に標準化事業を推進してまいります。